

令和3年度入学試験

## 一般学科試験

桐朋学園大学音楽学部

Ⅰ～Ⅱの各設問すべてに取り組み、それぞれの答えを解答用紙の所定の箇所に書きなさい。

### 注意事項

1. 問題用紙に落丁などある場合は、挙手をして申し出て下さい。
2. 終了時刻まで退出はできません。ただし、気分が悪くなったなどの場合は、挙手をして申し出て下さい。

## I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「本文に至るまでの説明」

日本人である「わたし（著者）」は、英国の南端にあるブライトンという街に二〇年以上暮らしている。配偶者と息子との三人暮らしで、息子は市のランキングで常にトップを走っているカトリックの小学校に通っていたが、中学校はカトリックの学校に進学せずに、地元の中学校に入学した。そこは、通っていた小学校とは異なり、殺伐とした英国社会を反映したような学校だった。

冬休みが終わり、二学期が始まると雨降りの朝が続いた。うちはわたしが自動車を運転しないので、雨が降っても①トホ通学だ。が、学校に着いたら制服のズボンの②裾がずぶ濡れのうちの息子に③トウジョウウし、友人たちが一緒に車で登校しないかと誘ってくれているようだ。

坂の上の高層団地に住むティムは、雨がひどく降る朝は一番上のコワモテの兄が車で学校まで送ってくれるように、ちやうどうちの前の道を通って行くからと二日ばかり連続で息子を一緒に乗せて行ってくれた。ところが、その噂を聞きつけたダニエルが、うちのBMWに乗っていけと執拗に息子を誘っているらしい。

「行きはティムのお兄ちゃんに送ってもらって、帰りはダニエルのお母さんっていうのがベストなんだけどなあ。ティムのお兄ちゃんは僕らを送ったら夕方まで仕事だから、帰りは迎えに来てもらえないし」と息子は悩んでいる。

「だけど、帰りだけでいいなんて言い出しにくいから、ダニエルのお母さんに送ってもらうなら行きも帰りもってことになるけど、最初に誘ってくれたのはティムだし、そっちを裏切るわけにもいかない」

「朝はティムのお兄ちゃん、帰りはダニエルのお母さんがまとめて送ってくれたら一番④ゴウリのだけどね」  
わたしが言うとき息子はぶんぶんと首を振った。

「絶対に無理。彼らは仲が良くないから、なんか僕は2人の板挟みになっちゃって」

「友達から取り合いされてんの？ 人気者じゃん」

と笑うと、息子が真剣な顔つきで言った。

「そういうんじゃないよ。あの2人、互いにヘイトをぶつけ合っている」

ダニエルは、ハンガリー移民の両親を持つわりには移民に対する差別発言が多く、うちの息子とも最初はそれで喧嘩したりしていたが、一緒にミュージカルに⑤シツツエンしたことをきっかけに仲良くなった。以降、まじめなうちの息子が彼のレイシズム発言を口うるさく注意するので、最近ではあまりどぎついことは言わないらしい。

ところが、界隈で「チャヴ団地」と呼ばれる坂の上の高層団地に住むティムと息子が仲良くなっているのをダニエルは快く思っていない。「あいつの一家は反社会的」とか「アンダークラスとつきあうとろくなことがない」などと言っていて、本人の前ではさすがにそういうことは言わないらしいが、⑥偏見に満ちた目つきというのは見られている当人にはわかるものだ。ティムはティムで、「くそハンガリー人」とか「東欧の田舎者」とか人種差別的なことを言い出したそうで、顔を合わせればヤバイ空気が漂うと息子はため息をついた。

「確かに、それじゃあ一緒に通学はできそうもないね」

「うん。どうしてこんなにややくしいんだろう。小学校のときは、外国人の両親がいる子がたくさんいたけど、こんな⑦面倒なことにはならなかったもん」

「それは、カトリック校の子たちは、国籍や民族性は違ってても、家庭環境は似ていたからだよ。みんなお父さんとお母さんがいて、フリー・ミール制度⑧なんて使っている子いなかったでしょ。でもいまあなたが通っている中学には、⑨国籍や民族性とは違う軸でも多様性がある」

「でも、多様性っていいことなんでしょ？ 学校でそう教わったけど？」

「うん」

「じゃあ、どうして多様性があるとややこしくなるの？」

「多様性ってやつは物事をややこしくするし、喧嘩や衝突が絶えないし、そりゃないほうが楽よ」

「楽じゃないものが、どうしていいの？」

「楽ばっかりしてると、無知になるから」

とわたしは答えると、「また無知の問題か」と息子が言った。以前、息子が道端でレイシズム的な罵倒を受けたときにも、そういうことをする人々は無知なのだと言ったが言ったからだ。

「多様性は、うんざりするほど大変だし、めんどくさいけど、無知を減らすからいいことなんだと母ちゃんは思う」

わたしがそう言うと、息子はわかったのかわからなかったのか判然としない面持ちで、おやつチーズをむしゃむしゃ食べていた。

・・・(中略)・・・

ティムとダニエルと息子をめぐる雨天車両問題は、雨の日が減るとともに落ち着きを見せたのだったが、ついにある日、ティムとダニエルが校内で<sup>⑧</sup>ハデに衝突してしまった。

ティムのリュックの底が破れて本やノートが飛び出しているのを見たダニエルが「貧乏人」と笑ったので、ティムが「ファッキン・ハンキー(中欧・東欧出身者への蔑称)」と言いつ返し、<sup>⑨</sup>逆上したダニエルがティムにとびかかって取っ組み合いの喧嘩になったのである。若い男性の体育教員が飛んできて、2人とも生徒指導室に連れて行かれたらしい。

「納得いかないのはティムのほうが厳しい罰を受けたことなんだ。ダニエルは居残りだけで済んだけど、ティムは一日中、自習室に隔離されて、一週間も放課後に奉仕活動をさせられている」

「人種差別的なことを言ったからでしょ」

「けど、ダニエルも、ティムに『貧乏人』って言ったんだよ。僕はどっちも悪いと思うんだけど、友達はみんな、人種差別のほう为社会に出たら違法になるから悪いことだって言うんだ」

息子は不満そうに<sup>⑩</sup>語気を荒らげて続けた。

「人種差別は違法だけど、貧乏人や恵まれない人は差別しても合法なんて、おかしくないかな。<sup>⑪</sup>そんなの、本当に正しいのかな？」

「いや、法は正しいってのがそもそも違うと思うよ。法は世の中をうまく回していくためのものだから、必ずしも正しいわけじゃない。でも、法からはみ出すと将来的に困るのはティムだから、それで罰を重くしたんじゃないかな」

「それじゃまるで犬のしつけみたいじゃないか」

息子の真剣な目つきを見ると、ふと自分も彼と同じぐらいの年齢に戻ったような気分になった。

「去年、夏に日本に帰ったとき、スーパーで母ちゃんの昔の学校の先生に会ったの、覚えてる？」

「うん。女の先生だよ」

「あの人ね、ちょうど母ちゃんがあんたぐらいのとき、担任の先生だったんだ。で、今でも覚えてるんだけど、あの頃、母ちゃんの学校でも似たようなことがあったよ」

わたしは食器を洗う手を休めて台ふきんで手を拭きながら話し始めた。

「母ちゃんの学校の近くにも、坂の上の高層団地みたいに差別されている地区があつてね。でも、そこはもつとずっと昔から、人々に『あそこの人たちは付き合うな』とか『あそこの住人は俺たちと違う』っていわれなき差別をされてきたコミュニティだった。で、あのスーパーで会った先生は、あの頃、大学を出たばかりで、若く

てすごく可愛かったんだけど、そのコミュニティの人と恋をして結婚しようと思ったんだ。でも、先生の家族は大反対で『あんなところに住んでいる人と結婚するのは許さない』とか言うから、先生は家出して、ようやくそのコミュニティの人と結婚したんだ」

「ふうん」

「で、ある日、教室で喧嘩が起きたんだ。ある生徒が、別の生徒のことを『ボロい借家の子』ってバカにしたんだ。バカにしたほうの子はお金持ちだったからすごく大きな新築の家に住んでいて、バカにされた子の家は小さくて古くて、その子は自分の家のことを恥に思ってたから絶対に友達を遊びに來させたりしなかったし、どこに住んでいるのかも人に知られたくない様子だった。それで、お金持ちの子がそれをからかったんだね」

「そんなのひどい」

「それで、バカにされた子はくやしいうから、『おまえだってあの地区の住人のくせに』って言い返したんだ。そのお金持ちの子は、差別されているコミュニティに住んでいたから。そしたらお金持ちの子も激怒して、ティムとダニエルみたいに殴り合いの喧嘩になっちゃった」

「それで、どうなったの？」

「あの先生が2人を止めに入っただけで、『ボロい借家の子』って言われた子は、絶対に自分のほうが叱られるとわかってたから、先生が何も言わないうちから下を向いて泣いていた。だって、先生はその子がバカにしたコミュニティの住人になっていたし、実際、そのコミュニティの人と結婚するためにすごく苦労したってことを大人たちから聞いていたから」

「それはヤバイね」

「でも、先生はその子だけを叱らなかつたんだよ。2人を平等に叱った。『暴力は言葉でもふるえるんです。2人とも、<sup>(3)</sup>殴られるよりそっちのほうが痛かつたでしょう』って」

「なんでその先生は喧嘩両成敗にしたんだろうね」

「差別はいけないと教えることが大事なのはもちろんだけど、あの先生はちょっと違ってた。どの差別がいけない、っていう前に、人を傷つけることはどんなことでもよくないっていうも言っていた。だから2人を平等に叱ったんだと思う」

『ブレイディ みかこ』『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(新潮社、二〇一九年)より抜粋

【注】フリー・ミール制：政府からの各種補助制度(生活保護、失業保険など)を受けている家庭では、給食費が無料になる制度

問一 波線部①～⑩のカタカナは漢字に、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 傍線部(1)「国籍や民族性とは違う軸でも多様性がある」とありますが、この中学校には国籍や民族性以外にどんな多様性があると考えられますか。本文の内容から考えられる多様性を二つ答えなさい。

問三 傍線部(2)「そんなの、本当に正しいのかな？」とありますが、息子のそうした疑問に対して、筆者は自分の経験談からどのような考え方があることを伝えようとしていますか。本文中から二〇字で抜き出さない。

問四 傍線部(3)「殴られるよりそっちのほうが痛かつたでしょう」とありますが、「そっち」が指し示す箇所を、本文中より二箇所抜き出しなさい。

- 問五 本文の内容に関するア～エの説明に対して、適当なものには○を、適当でないものには×を記しなさい。
- ア ダニエルからの差別的な眼差しを感じていると思われるチームは、それに対して人種差別的な発言をするようになり、両者の間には険悪な空気が漂っている。
- イ ダニエルとチームの喧嘩に対する対処としては、法的に制裁を受ける人種差別的な発言をしたチームの方により重いペナルティが与えられるべきと筆者は考えている。
- ウ 筆者の「担任の先生」は、いかなる差別も行ってはいけないことだけを伝えるために、喧嘩した生徒に対して、その理由を問わず双方とも等しく処罰することとした。
- エ 息子は人を傷つける発言をしたことに対して、ある特定の基準から罰の軽重があることに違和感を抱いており、そうした行動を思考停止みたいだと感じている。

- 問六 二重傍線部「多様性は、うんざりするほど大変だし、めんどくさいけど、無知を減らすからいいことなんだと母ちゃんはあると思う」とありますが、あなたの身近には(一)どのような多様性がありますか。それについて(二)いい点とややこしい点を七〇字～九〇字で説明しなさい。

解答用紙

I

専攻	
受付番号	
氏名	

--

問六					問五	問四		問三	問二	問一		
				一	ア					⑥	①	
											⑦	②
					イ							
											⑧	③
				ニ								
					ウ							
											⑨	④
					エ							
											⑩	⑤

II 次の英語課題の設問に答えなさい。

\* 答えは解答用紙の指定の場所を書くこと

問 1. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. It is never too late to be who you want to be.
2. The door of chance is opened by pushing.
3. The more we study, the more we find we know nothing.
4. The future depends on what we do in the present.
5. Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.

問 2. 次の文の、英語の部分は日本語に、日本語の部分は英語に訳しなさい。

すべての偉大なことは単純である。And many can be expressed in a single word: freedom; justice; honor; duty; mercy; hope.

問 3. 次の日本語の文を英語に訳しなさい。

1. 目が覚めると、外は雪が降っていた。
2. あなたがそのコンサートで誰に会ったのか、私は知りたい。
3. 何事においても、ベストを尽くすことが大事である。
4. もし明日、彼がここに来たら、これを渡してください。

問 4. 英語で書かれた次の言葉について

If you can dream it, you can do it.

1. 日本語に訳しなさい。
2. また、それについてあなた自身の意見を 50 語程度の英語で書きなさい。

(句読点を数えずに 40～60 語で)

解答用紙

専攻	受付番号	氏名	

II

問1.

1.
2.
3.
4.
5. ....

問2.

日本語部分英訳 .....
英語部分和訳 .....

問3.

1.
2.
3.
4.

問4.

和訳 .....
あなたの意見 ..... ..... ..... ..... ..... ..... ..... .....

(使用単語数 : 語)